

会議録

会議の名称	令和5年度第2回ふじみ野市地域福祉計画審議会			
開催日時	令和5年9月29日(金) 開会時刻 午前10時00分 閉会時刻 午前12時00分			
開催場所	ふじみ野市役所第2庁舎3階 B301会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	山本 美香	事務局	仲野 公堅
	副会長	岡田 哲郎	事務局	佐々木 佐代
	委員	奈良 環	事務局	角張 ちひろ
	委員	今野 悦也	福祉総合 支援チーム	大川 優生
	委員	市来 久美子	社会福祉協議会	植草 英二
	委員	當麻 俊輔	ジャパン総研	地引 綾
	委員	柳川 道子	ジャパン総研	新橋 明奈
	委員	山城 いづみ		
	委員	小菅 友美		
	委員	村田 和也		
	委員	鹿島 貴彰		
	委員	小泉 慎介		
会議の議題	(1) 第2期ふじみ野市地域福祉計画進捗状況について (2) 第3期ふじみ野市地域福祉計画素案について			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	福祉部地域福祉課			
議事の確定	確定年月日	令和5年10月 日		
	記名押印 又は署名	役職名 会長 山本 美香 ㊟		
※自署の場合は、押印不要です。				

発言の要旨

発言者	発言の要旨
仲野課長	<p>会議開会に先立ち、事務局より伝達事項がございます。 市では、開かれた市政を推進するため審議会等の会議を公開することとしており、本審議会についても、会議を公開することとなっております。 本日の傍聴希望者はありませんので、このまま会議を開会させていただきます。</p>
仲野課長	<p>1. 開会 それでは、令和5年度第2回ふじみ野市地域福祉計画審議会を開会します。 本日の審議会委員の出欠状況でございますが、欠席の委員は関根委員、小林委員の2名で、出席委員は12名となっております。本審議会の総委員数は14名です。本日の出席委員数は、半数以上が出席されており、ふじみ野市地域福祉計画審議会条例第6条第2項に基づく審議会の開催要件を満たしていることをご報告します。</p> <p>また、本日の審議会には、ふじみ野市地域福祉計画審議会条例第6条第4項の規定により、ふじみ野市社会福祉協議会の職員、また第3期地域福祉計画策定のお手伝いをいただきます、受託業者の株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の職員にも出席いただいておりますので、ご報告します。</p> <p>ここで、本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p> <p>(配布資料の確認)</p>
仲野課長	<p>それでは、次第の「2. 議題」に移ります。 ここからの進行は、ふじみ野市地域福祉審議会条例第6条第1項の規定に基づき、山本会長にお願いしたいと思います。 よろしく願いいたします。</p> <p>2. 議題 (1) 第2期ふじみ野市地域福祉計画進捗状況について</p>
山本会長	<p>それでは、議題1「第2期ふじみ野市地域福祉計画進捗状況」について事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>(事前送付資料1により第2期ふじみ野市地域福祉計画進捗状況について事務局より説明)</p>
山本会長	<p>ただ今、事務局から説明がありましたが、何かご意見等ありますでしょうか。 私から一点質問ですが、ふじみ野市では早くから総合相談支援に取り組んでいますが、実際に総合相談窓口を設置してどんな効果がありましたか。</p>

柳川委員	<p>地域で活動している民生委員は、活動がしやすくなりました。どんな相談にも対応してくれて、アウトリーチや訪問、制度適用の相談もでき、大きな変化であると感じています。</p>
大川係長	<p>組織の立ち上げから8年、複合課題の解決をチームでやっていくことは、市では重層の前からやっており、事業を掲げることによって、庁内外との連携がしやすくなりました。支援者が抱えていた課題を改善に向けて引き上げていくきっかけにもなっています。</p> <p>支援者の負担感の軽減もできたらいいと考えており、市では立てこもり事件を受けて支援機関側を守る条例も掲げています。市民だけではなく、支援機関の負担を軽減することに効果があったと感じています。</p> <p>ふくし総合相談センター「よりそい」等のおかげで支援のスピード感がでています。また、支援調整に従ってもらうことで、たらいまわしのケースも速やかに支援につながりやすくなりました。</p>
山本会長	<p>現場で実感されているのはよいと思います。</p>
岡田副会長	<p>地域づくりの包括的な支援体制の動きについて補足があればお聞きしたいです。全国的な傾向ですが、児童や高齢者向けのコーディネーターはいるが、互いにつながらないことで地域づくりも縦割りになっていることが課題と感じています。</p>
仲野課長	<p>高齢者分野の生活支援体制整備事業については、生活支援コーディネーターがいて、私どもの抱える部署にはCSWがいます。学校運営においては地域支援コーディネーターがいて動きが似ています。行政内部でもそういった状況を知らないことがあり、まだまだ縦割りの状況にあると感じています。</p> <p>福祉総合相談センター「にじいろ」にはCSWと生活支援コーディネーターもいるので共に動いていくことができていると思います。地域支援コーディネーターも第2層協議体に参加してもらっていて、同じ課題をみんなと一緒に活動しています。今年度の動きもあり、進捗状況の中では、落としきれていない部分もありますが、縦割りの中でも横のつながりを意識しながら、無駄のない動きをしていきたいと考えています。</p>
小泉委員	<p>資料1の6ページに記載のある「ボッチャ体験」は好評でしたか。</p>
仲野課長	<p>ボッチャ体験は、奈良先生の学生さんと実施させていただきました。非常に好評で、お子さんと高齢者が世代超えて同じ対戦として、一緒にやっている姿がよかったです。学生もいきいきとしていて、高齢者の方も交流ができて楽しかったと言っていました。高齢障害者も含めてスポーツでつながるよいツールであると感じました。</p>
小泉委員	<p>ボッチャが多世代交流のツールになると思っています。世田谷区では大会を実施しているようです。自治組織のチームが若い世代のチームに勝ったりと年齢関係なくやっていけるものなので、続けていって、根付いていくと交流の文化として発展していくのではと楽しみです。</p>
今野委員	<p>自治組織活動において、コロナ前にできていたような体を動かすイベントが最近はずいぶん実施できるようになってきました。</p>

	<p>社会福祉協議会、文京学院大学、自治組織の3者で協力して、ボッチャのイベントを大井総合福祉センターで開催しました。</p> <p>集まるのは高齢者ばかりだが、チームでやっているうちに勝とう勝とうとみんなで盛り上がり、その後分館でも開催し、計3回行いました。</p> <p>地域で何をやろうかと考えるとボッチャが上がってくることが多くなってきています。</p>
山本会長	奈良委員いかがでしょうか。
奈良委員	<p>学生たちはボッチャ職人のようになっていて、得点などを簡易的にしてオープンキャンパスでも実施したり、天候や場所によって調整して実施することもできています。需要が多くなってきたので、ボランティア活動が戻ってきていると感じていますが、応えきれなくなってきました。</p> <p>多世代交流は、推進する側は難しい部分もあり、ボッチャくらいしか実施できるものがなく、バラエティを増やしたいという思いもあります。</p> <p>第三者の視点から見ると、フードパントリーなどで、引きこもりの方にも外出の機会をつくり、声をかけている「よりそい」の職員の姿をよく見ました。本来の目的とは違うかもしれませんが、いろんなところに声をかけていると思うが、よい効果になっていると思いました。</p>
市来委員	<p>ボッチャに限らず、地域活動については、それぞれの地域性もあり、活動する場の確保が難しい状況です。私のところではマンションの集会室で5～6年前からボッチャを実施していて、住民の楽しみの場になっていました。今回、大井総合福祉センターで実施した時は、学生を巻き込んで、広がりを持たせることができたのでとてもよかったです。</p> <p>地域の実情や特性を支える体制がないと芽があっても開かないので、地域のコーディネーターがとても重要だと思います。最近、少しずつ開いてきたかなという印象で、用心しながら育てていきたいです。行政の力を借りたりしながら展開していくといいなと思います。</p>
小泉委員	今後つながっていくと思うのですが、市内でボッチャの大会はありますか。
仲野課長	大会としてはありませんが、担当課にも報告させようと思います。
山本会長	<p>みなさんご意見ありがとうございました。</p> <p>他にご意見がないようですので、議題2に入らせていただきます。</p> <p>(2) 第3期ふじみ野市地域福祉計画素案について</p> <p>それでは、議題2「第3期ふじみ野市地域福祉計画素案」について事務局より説明願います。</p>
事務局 ジャパン総研	(事前送付資料②③、参考資料により、基本理念・基本目標(案)について事務局及びジャパン総研より説明)
山本会長	前回のグループワーク、52ページについていかがでしょうか

岡田副委員長	<p>基本理念、目標はみなさんの同意のもとで決定することが前提ですが、グループワークでは多様性、個性という部分が重視され、「つながり」「支え合い」も強制されるものではなく、選択できるものであることが大切という意見がありました。また、「みんなが」という文言が同調圧力にならないか、「笑顔」という文言についても、笑顔になるのが苦手な人もいるので強制になっていないかと感じました。現状の基本理念の案は、ひとりひとりの顔が見えにくく表情が埋もれてしまっている印象もあります。</p> <p>基本目標Ⅱにある「個性」を前面に出してもよいのではと思いました。例えば「互いの個性を生かすまち」「生かし合うまち」など。</p>
山本会長	委員のみなさまいかがでしょうか。
柳川委員	<p>先程の意見が大事だと思います。それぞれの顔、自主性は尊重されつつ、連携するということが大事で、連携の在り方も主体によって変わり、多岐になっています。選択制を重視し、きちんと話し合いがされることが重要だと思います。</p>
山本会長	山城委員いかがでしょうか。
山城委員	<p>グループワークでは「個性」を強調されていたということで、みなさんの思いがあって「みんな」「笑顔」という言葉が負担になるのであれば変更してもよいかと思います。</p>
奈良委員	<p>私は解釈の違いなのかなと感じました。ひとりひとり違ってよいという意味での「みんな」という言葉だと思います。自分も含まれるという言葉に変えてもいいのかなということで「互いの個性を活かし」という言葉を入れてもいいのではと思います。</p>
山本会長	當麻委員いかがでしょうか。
當麻委員	互いの個性というピンポイントな言葉よりは「みんな」という表現がふんわりとしてよいと思います。
柳川委員	「笑顔」を取ってしまうのはどうでしょうか。
ジャパン総研	「それぞれの顔」や「笑顔が輝く」という表現はいかがでしょうか。
小泉委員	<p>「みんな」「笑顔」は入れた方がよいと思います。「みんな」という言葉の捉え方が変わっていくとよいのではないかとも思いますし、活動して楽しくなれば、笑顔になっていくのかなとも思います。また、若い世代がどのように感じるのか、ヒアリングを行った中学生にも意見を聞いてみたいですね。</p>
市來委員	個性もいろいろですし「笑顔」がなくてもいいのではないのでしょうか。
山本会長	<p>みなさんご意見ありがとうございました。</p> <p>「輝ける」という言葉には「笑顔」も含むということで、基本理念については、「豊かな心で支え合う みんなが輝けるまち ふじみ野」というこ</p>

	とでよろしいでしょうか。
	それでは次に基本目標について、ご意見ある方はいらっしゃいますか。
奈良委員	基本目標が1～3と表記されていると順番と捉えてしまうのではないのでしょうか。
山本会長	順番ということではないですが、地域づくりを最重要としているので一番上に持ってきています。
ジャパン総研	会長のおっしゃる通りで、1が一番大事な部分、3は土台ということで表記しています。
奈良委員	1は市民、3は市が取り組む部分、2は市民と市が共に取り組んでいくということで理解しました。
市來委員	バランスを取りながらやっていくという解釈ですね。
山本会長	小菅委員いかがでしょうか。
小菅委員	前回の審議会での意見が反映されているので合っているのではと思います。地域のつながりが最優先だと意見でも出ていたのでこれでよいと思います。
山本会長	鹿島委員いかがでしょうか。
鹿島委員	前回の意見がまとまっていてよいと思います。
山本会長	村田委員いかがでしょうか。
村田委員	53ページを見るとわかりやすいが、55ページを見るとわかりにくいのでなんだろうと感じてしまいました。誰もが気軽につながれる地域というのが目標だというのはわかるのですが。
岡田副会長	基本目標の副題を見ると何に取り組めばいいかわかるようになっていきます。55ページになると、メインタイトルのフォントが大きいのでわかりにくく見えるのではないのでしょうか。
山本会長	そういった違和感は大切にしたいので、工夫を考えようと思います。
當麻委員	53ページと55ページがローマ数字と算用数字で表記が違うので、それも違和感の原因ではないのでしょうか。
山本会長	ご指摘ありがとうございます。
小泉委員	「地域づくり」だけですとシンプルになってしまうので、「輝ける地域づくり」みたいにもう少し言葉を足してみてもどうでしょうか。「つながる関係づくり」「支える体制づくり」など。

山本会長	表現がシンプルであることは確かなのですが、そこに言葉を足すとそれで議論が発生してしまうかなとも思いますが、いかがでしょうか。
岡田副会長	基本目標のメインの文言がシンプルすぎるかなとも思いますが、副題に意味がこもっていて、含まれている意味には委員の合意が取れているかなと思います。
山本会長	見せ方として、副題のフォントをメインと同等の大きさと表記するなど事務局と調整させていただければと思います。 それでは、議題2の「基本理念・基本目標」についてはここで終了とさせていただきます。 続きまして、議題2の「重点項目の案」について事務局より説明願います。
事務局	(資料3により、重点項目の案について事務局より説明)
山本会長	只今、事務局より説明がありましたが、資料3「重点項目の案」について、ご意見等ございましたらお願いいたします。 表現が合っているかどうか、みなさんの意見に沿っているかどうかなど、時代で認識が変わってきている部分もあると思いますので、そういった点についてもご意見あればお願いしたいです。
今野委員	資料3の「・市社協、企業、活動団体などと連携して市民が参加しやすい場所を増やす」という記述について、自治組織活動をする場所はたくさんあるが、活動を推進していく人が減っていて、活動者も限られた人になっています。次の世代が頑張っていくかといけなと感じていますし、解散している団体も多く、他団体とのパイプを大きく広げていかないといいけないと思います。
市来委員	地域のコミュニティをどう育んでいくか真剣に広く考えていかないといいけないですし、文章だけでは読み取れない課題がたくさんあります。 若い世代をどう育んでいくか、元気な高齢者がどう頑張っていくか、みんなで知恵を出し合って当たらないといけないですよね。
山本会長	このことについて、重点項目の中で示していく必要はありますね。
今野委員	多世代交流事業の記述があるが、活動している人は数十年間変わってもなく、限界を感じています。大井中央公民館の立て替えは、地域の人が集まってくる場所になるのではないかと期待しています。 自治組織の活動においては、学生さんが一緒に活動していくように心がけていて、近くの大学に声をかけて事業を実施しています。やはり若い人が活動に入ってくると変わってくることを感じます。また、子どもが来ると、保護者も来てくれるので、子ども対象で集まってみんなで何かをやるということが大切だと思いました。特にお祭りは人を集めるパワーがとてもあるなと感じました。自治組織に加入していない人を巻き込んで事業ができればなとも思います。
山本会長	次世代にどうつないでいくかというのはコミュニティの基盤づくりに大

	<p>きく関わってきますね。新しいグループで活動を起こしてくれれば学生のニーズは高くなっていて、それを活かせればと思いますが、奈良委員いかがでしょうか。</p>
奈良委員	<p>頑張りたいですが、学生が少ないというのが現状です。活動の際、何かをしてあげようという気持ちが先行してしまう傾向にあります。学生側が提供するだけでなく、一緒にしよう、教えてもらおう、という思考に変わってくるような、教えていただくような場所をつくっていきたいです。</p>
山本会長	<p>地域はそういったことを学べる場でもありますよね。 小菅委員、障がい福祉の観点から不足部分はありませんでしょうか。</p>
小菅委員	<p>障がいの幅が広がっています。見えない障害をもっている人をどう拾い上げればいいのか、ひきこもっていない人、手帳を持っていない人でも障がいを抱えている人がかなりの数いるのではないかと思います。サービスを必要としているかどうかという部分はありますが、そういった表に出てこない人をどうしていくのかも課題であると感じています。 障害の分野では8050問題が9060問題になっています。片親で障害があつて、生活の行き場がない、地域で暮らせない人もいます。また、少し助けがあれば暮らせる人もいます。そういう人が地域で暮らせれば、その他の人も暮らしやすい地域になるのではないかと思います。</p>
山本会長	<p>社会の中から見えなくなってしまう人に対する支援も考えていかなければいけない部分になりますよね。</p>
柳川委員	<p>障がいに関わるところで言うと、ボランティアからの相談も多くなっています。ボランティアは制度をきちんと知らないまま、情報提供してしまうこともあります。ボランティアでは制度などについてカバーできないので、支援が必要かと感じていて、そういった面を含めて総合相談ができることが重要で、期待をしています。環境づくり、体制づくりも含めて、考えていかないといけないと感じていて、障がい福祉以外も現場に寄り添って行ってもらいたいです。</p>
山本会長	<p>非常に難しいところもありますが考えていきたい部分ですね。 重点項目の案について、この場ですぐに意見をというのには厳しいかもしれませんが、審議会の後に時間を少し取って意見を受け付けることはできますか。</p>
事務局	<p>10月6日までであれば可能です。</p>
山本会長	<p>では、そのような形でお願いします</p> <p>(3) その他</p> <p>次に、議題3「その他」です。みなさま何かありますか。</p>
小泉委員	<p>先程も意見させてもらいましたが、学生に意見を聞いてみることはできるでしょうか。また、基本目標等を市民や地域に普及していく新たな方法・仕掛けがあるとよいと思います。</p>

山本会長	<p>その部分については次回審議会時に少しお話しできればと思います。</p> <p>これで本日予定されていた議題は全て終了しました。 それでは、これもちまして議長の任を解かせていただきます。 慎重審議ありがとうございました。</p>
仲野課長	<p>3. その他 山本会長ありがとうございました。 それでは次第の3「その他」ですが、事務局より連絡事項がございます。</p>
事務局	<p>(審議会委員報酬の振込予定等について事務連絡)</p>
仲野課長	<p>4. 閉会 それでは閉会にあたりまして、岡田副会長よりご挨拶をお願いします。</p>
岡田副会長	<p>みなさま、お疲れ様でした。 私の大学では、学生が社会福祉士の実習から戻ってきている時期です。 社会福祉協議会の実習へ行った何人かの学生が、オンラインの外部研修で ふじみ野市の包括的支援体制の話が出たと言っており、私もその研修を受 けていましたので話題に上がりました。群馬にもふじみ野市の包括的支援 体制の話が届いていてうれしく思いました。 第3期計画では、そういった体制を住民が進めていく段階に入ってくる と思われま。住民だけでもできないし、専門職だけでもできない、言葉 で言うのは簡単ですが、非常に難しい社会課題に取り組んでいくことにな るのかなと気が引き締まる思いでした。引き続きよろしくをお願いします。 ありがとうございました。</p>
仲野課長	<p>以上をもちまして、令和5年度第2回ふじみ野市地域福祉計画審議会を 閉会いたします。 みなさま、ありがとうございました。</p>